

津久井中央ロータリークラブ



事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F
TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830
例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30
会長 前沢弘之 幹事 井上 旭



第 1178 回 平成 31 年 4 月 4 日(木曜日)《29》

司会 杉本信一 SAA 会長 前沢弘之 会長 斉唱 君が代 四つのテスト

会長挨拶 前沢弘之 会長

このところ、「平成最後の〇〇」が大流行りですね。どうでもいいことですが、私、平成最後の当クラブ会長です。

では、先週の続き、「私の奉仕論」第3部：完結編をお届けします。

私たち、何かというと奉仕、奉仕と、圧力とか、何だかその奉仕にいつも追いかけているような感じがしませんか。一体、その奉仕とは何か。どうしてそんなものに追いかけれなければならないのか、一度じっくり考えてみようと思って始めてしまったのが、このシリーズです。

「奉仕」とは何か。一つの考え方は、自分の生存に関する「負い目」からくる、一種の罪滅ぼしという考え方です。

我々ロータリアンは、職業人ですね。ところで職業というのは、現在の社会経済システムの構造の、しかもその基軸となるような部分の現れそのものです。〇〇という職業があるということは、その〇〇を必要とする社会経済構造があるということです。すると、環境問題や資源問題、南北問題、貧困や格差、差別の問題、移民問題…そういった社会問題が、今日の社会経済システムのあり方がもたらす帰結そのもの…

なのだとしたら、我々の日々の職業活動が、まさにそういう問題を帰結していると言わざるを得ません。だから、我々の奉仕は、その罪滅ぼしである。

あるいは、その変形としてのノブレス・オブリージュ（高貴さは義務を強制する。元々は王族や貴族のような特権的な立場にある人には、社会の模範となるべき、特権的な利益を社会に還元すべき、あるいは恵まれない人々に恩恵を施すべき社会的責任があるということです。我が国では、天皇家の人々がその典型ですね。それをさらに財産や社会的地位に恵まれている人一般に及ぼすということ。）もつとも、こんな片隅の田舎では、おこがましいというか、ノブレスもオブリージュもへったくれもなからうとは思いますが。

これらは、ある意味で分かりやすい考えです。私たちは誰しも、生存するためには必ず他の命を奪う（動植物を食べるわけですから）。誰かの世話になる。誰かに必ず迷惑をかける。だから、この社会にある限り、ここに生きている限り、ある種の負い目がある。そして、この社会には、事実として様々な問題がある。不公平がある。自分はその社会の当事者に他ならない。だとしたら、恵まれている人は、多少なりとも余裕があるなら、それらの是正に向けて、財産や労力を差し出すべきである。人にはそういう道徳的、

【出席報告者 田畑和久委員長】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
16	16	11	5	68.75%	100%	60.00%
本日欠席者	小山会員、森田会員、高橋会員、具会員、井上会員					

あるなら、それらの是正に向けて、財産や労力を差し出すべきである。人にはそういう道徳的、倫理的義務、あるいは使命がある。つまり、奉仕の本質は、道徳的、倫理的な義務である。そして、端的に、ロータリークラブに入会するという事は、そういう義務を自分から認めることだと、まあ、こう言ってしまえば一番簡単です。「ロータリーの目的」の一つに、「ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、日々奉仕の理念を実践すること」とありますからね。

一方で、大きな社会経済問題、私一人や私たち小さなクラブで何とかしようとしてもどうにもならない問題は（平和も、貧困も、衛生も健康も教育も）、本来政治の問題です。政治的に、例えば福祉政策や所得の再分配といった形で対処すべき問題です。では、政治問題だから我々とは関係ないのか、政治家や実際に政治に携わる人々だけに課された問題なのかというと、少なくとも建前上は違いますね。我々自身、特に選挙権のある大人たちみんなの問題と考えなければならない。

だから、我々の奉仕は、その本来の政治による解決が不十分なところを補うものである。そういう捉え方もできるでしょう（だいたい前に、我々の寄付やそれに基づく補助金事業は、機能的にはプライベートな所得の再分配である、というような話をしました）。つまり、奉仕は、我々の政治的な責任からくるものであり、例えば福祉のような政策的行為の補助的行為である。（もっとも、ロータリーは、本来的にそういうことをする団体があるなら、その邪魔をするなどと言っていますけれど。）「政策的」とは、福祉施策に典型的なように、あるシステムを維持していくためにどうしても生じてしまう問題を補完する、是正する、つまり現体制・現システムの維持が主目的であるということです（我々は、好むと好まざるとにかかわらず事実として体制側にある人間ですね）。要するに、奉仕の本質は、現システムを維持するための政策の補助的・補完的行為である（だから、我々は行政に好まれる…）。まあ、勿論世の中を根本的に変えるような「奉仕」というものもあるのだろうとは思いますが…。

さて、どう考えるか。どう考えるにしても、

奉仕は義務とか責任の問題なのではないでしょうか。

それで少しも間違っていないとは思いますが、私の経験、特にこの津久井中央ロータリークラブでの奉仕活動の経験から言って、私たちに、「何かやらなきゃ」という意識はあるものの）義務だ責任だという意識は、ほとんどないような気がします。そして、実は私は、その感覚が正しいと考えています。

私たちが、この世界を美しいと感じたり、人と交流することを楽しいと感じるのはなぜか。それは、私たち人間の、種としての生存と繁栄に向けて、生き物としての私たちに、そういう仕組みが装置されているからではないか。つまり、本能的な仕組みとして、私たちは目の前に困っている人がいたら助ける、自発的に世界と関係をもって、何かを少しでも良くするという事に喜びを感じる、そういうふうに行っているのではないか。だから、奉仕の汗を流した時、誰かが喜ぶ顔を見たとき、私たちは心からの喜びを、体の奥底から来るような喜びを感じるのではないか。どこかで素晴らしい奉仕活動が行われたと聞くと、羨ましいと感じるのではないか。そう考えないと、近年のボランティア流行りや、ボランティアの自発性、そして当クラブの奉仕活動の説明がつきません…。つまり、奉仕とは、義務でも責任でもなくて、私たちの喜びそのものであり、私たち人間の本質に根差した欲望である。これすなわち、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」…

暴論でしょうかね。確かに、こんなふうを考えるためには、ある前提があります。

もしも私たちが、飢餓が発生したり、人口増加を抑えるために産児制限をしなければならないような社会にいたら、こんな脳天気なことは言ってもらえません。逆に成長の真っ只中であって、栄養ドリンクを片手に24時間戦わなければならないような状態だったら、こんな議論を一般化することは、やはりできないでしょう（だから、今夢中で頑張っている人をロータリーに誘っても無理なのです）。つまり、その社会が、ある程度の高みに達していて、しかも既にながむしゃらに戦うような状態を抜け出ているということ（あるいは、程々のところで皆がそこそこ満足していること）が前提になるわけです。

私たちは、今、どんな地点に立っているのでしょうか。

ロバート・マルサスは、18世紀末、イギリスの救貧法（生活保護法の原点のようなもの）の給付水準の引き上げに反対して、その有名な「人口論」で次のようなことを言いました。

「食料の供給は人口の増加に追い付かない。人口は等比数列的に（一定の倍数で、つまり掛け算で）増加するのに対し、食料は等差数列的に（1から2、2から3というふうに、つまり足し算で）しか増えないからだ。貧困にあえぐ人の生活水準を上げると人口が増える。そうするとまた食料が足りなくなって…という繰り返しになるだけだ。人口の増加圧力を抑え、社会に食料が行き渡るようにしてきたものは、貧困と悪徳である。貧困があるからこそ、人口がそれほど増えずに済むのだ。また、もしも、利己心（≡悪徳）ではなく博愛の精神（≡美德）が社会を動かす原動力になってしまったら、今は一部の人だけが感じている欠乏を、社会全体で背負うことになる。すると国全体が貧しくなって、文明の進歩も止まってしまう。文明と未開を区別するものは、所有の制度と利己心（私のものは私だけのもの）である。その帰結としての貧困と悪徳こそが、何を隠そう人類の進歩の原動力なのだ。」（※原文ではありません。私なりの概括です）

…さて私たちは、今、一体どこにいるのか。

少なくとも、マルサスがいたところには、もういません。

以上、とりあえず、完結です。



幹事報告 井上 旭幹事

ロータリー関係受領書類

ガバナー事務所

マイロータリー・クラブセントラルセミナー
開催案内

相模原東 RC 相模原中 RC 相模原柴胡 RC

相模原橋本 RC 相模原大野 RC

例会変更通知

その他の受領書類

津久井商工会

経営計画作成支援セミナー開催案内

新会員の集い報告

池田豊文会員

3月22日、23日の2日間、新会員の集いに行ってきました。

まず1日目は、先週お越し頂いた相模原南 RC の大谷研修委員長の講演がありまして、その後に山田マキさんという元 CA の方の講演がありました。

2日間ともテーブルディスカッションで「ダイバーシティを叶えるための進化の探究」という内容でした。これは平たく言えば、仲良くするには、コミュニケーションを取るにはどうしたらいいかというような事でした。

同じテーブルの隣りの方と組んで、「自分が今まで生きてきた中で、最も成果を出したことは何か」ということについて、お互いに伝え合いました。

また、「ロータリーに入って良かったこと、ロータリーの嫌なところを各テーブルで纏めて報告しました。



スマイル報告 田畑和久委員長

『スマイル報告 田畑和久委員長』



津久井中央 RC

前沢弘之 会員 桜が満開ですね。今日は皆さん、お花見でしょうか。ちょっと淋しい出席率です。
池田さん、新会員の集い、ご苦労様でした。

吉野賢治 会員 津久井湖のサクラ満開です。6,7日花の園地のサクラ祭りです。花ももちそうです。
ステージイベントもあります。ひまでしたら来て下さい。

小川洋一 会員 今週は寒い日が続き。桜が散りません。4/6~7のさくらまつりは満開かもしれません。
吉野会長、おめでとうございます。青葉まつりでなく良かったですね。

池田豊文 会員 会社の前の桜が満開となりました。スマイルします。

水野 茂 会員 スマイルします。

八木 勉 会員 何かいい事ないかなあ〜。と願い、スマイルします。

山崎和彦 会員 桜が満開になってきたので、スマイルします。

杉本信一 会員 補助金申請、ようやく手続終わり、中身も OK のようです。最終決定は4月末の
予定との事です。金沢パストガバナー補佐より。
開催の時は参加するそうです。

田畑和久 会員 小川さんが持ってきた写真にスマイル。